

地域の美化たたえる

知事賞の慶徳小など表彰

花いっぱいコンクール表彰式



高村課長から知事賞を受ける慶徳小の久保田校長(右)と下間教諭＝2日、福島市・福島民友新聞社

第58回花いっぱいコンクールの表彰式は2日、福島市の福島民友新聞社で行われ、最高賞の知事賞に輝いた慶徳小(喜多方市)などをたたえた。福島民友新聞社、県森林・林業・緑化協会、農林中央金庫福島支店の主催。

慶徳小は全校児童50人や職員らが協力し、30平方

の花壇や42のプランターで花を栽培。地域の高齢者らと花を植える「オレンジロード」づくりに取り組んだり、地域の公共施設にプランターを届けたりして地域を彩るとともに、地域との交流にもつなげている。

式では福島民友新聞社の野崎広一郎社長が「猛暑や雨も多い環境の中、地域の

景観向上などの取り組みに敬意を表す。今後も県民の心が潤い、花でいっぱいになるよう活動を続けてほしい」とあいさつした。審査委員長を務めた宗像宏行県園芸課長が審査報告した。慶徳小の久保田義春校長、

県森林・緑化協に寄付

みんゆう環境キャンペーン

福島民友新聞社は2日、県森林・林業・緑化協会に、地球温暖化対策や環境保護を紙面で発信する「み



平田局長から目録を受ける石川副会長(右)

下間裕子教諭ら各団体の代表に表彰状を贈った。受賞者を代表し、久保田校長が「今後も美しい花壇、地域となるよう頑張りたい」と抱負を述べた。高村昭宗県文化振興課長、羽染聡県教委義務教育課主幹が祝辞を贈った。

本年度は44団体から応募があり、11月12日の審査会で入賞10団体を決めた。受賞団体は11月13日付に掲載しました。

んゆう環境キャンペーン」に賛同した企業からの協賛金の一部を寄付した。

贈呈式が福島市の本社で行われ、平田哲営業局長が石川俊幸副会長に目録を手渡した。

石川副会長は「次世代を担う子どもたちや県内の各緑化活動に大切にに使わせていただく」と話した。協会の十文字春喜常務理事が同席した。

キャンペーンでは、6月